

船舶事故調査報告書

令和5年12月20日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

| | |
|-------------|---|
| 事故種類 | 浸水 |
| 発生日時 | 令和4年7月31日 11時00分ごろ |
| 発生場所 | 大分県豊後高田市長崎鼻北方沖 香々地 ^{かかじ} 灯台から真方位342°1,040m付近 (概位 北緯33°41.6 東経131°31.2) |
| 事故の概要 | 水上オートバイ ^{ウルトラ} ULTRA300 ^{エックス} Xは、遊走中、横波を受けて転覆した際、シートが外れて機関室内に浸水した。 |
| 事故調査の経過 | 令和4年8月29日、主管調査官（門司事務所）を指名原因関係者から意見聴取手続実施済 |
| 事実情報 | |
| 船種船名、総トン数 | 水上オートバイ ULTRA300X、0.1トン |
| 船舶番号、船舶所有者等 | 293-39336大分、個人所有 |
| 乗組員等に関する情報 | 船長、特殊小型 |
| 負傷者 | なし |
| 損傷 | 主機に濡損 |
| 気象・海象 | 気象：天気 晴れ、風向 北、風力 3、視界 良好 海象：波高 約0.5m、波向 北東 |
| 事故の経過 | <p>本船は、船長が1人で乗り組み、同乗者1人を後部座席に乗せ、知人が操縦する水上オートバイ（以下「同行船」という。）と共に、長崎鼻北方沖で遊走していた。</p> <p>船長は、約15ノットの対水速力で右旋回をしたところ、横波を受けて転覆し、同乗者と共に落水した。</p> <p>船長は、転覆した本船を復原させようとしたが復原させることができず、機関室のハッチを兼ねているシートが外れて浮いており、機関室に浸水しているのを認めた。</p> <p>同行船の船長は、本船船長の依頼を受け、同行船により本船のえい航を試みたが負荷が大きくえい航できなかつたので、118番通報して救助を要請した。</p> <p>本船の船長及び同乗者は、来援した水難救済会の船舶に救助され、本船は同船にえい航され、出航地に帰航した。</p> <p>船長は、本船が転覆した際にシートが外れたのは、シートの閉鎖が十分でなかつたのかもしれないと本事故後に思った。</p> <p>船長は、操縦免許を取得後2回目の操船であり、波がある場所での操船に慣れていなかつたと本事故後に思った。</p> |
| 分析 | 本船は、右旋回中に横波を受けて転覆した際、機関室のハッチを兼ねているシートが外れたことから、機関室内に浸水したものと考えられる。 |

| | |
|--------------|---|
| | <p>船長は、操縦免許を取得後2回目の操船であり、横波がある状況での旋回操船に慣れていなかったことから、右旋回中にバランスを崩して転覆したものと考えられる。</p> <p>船長は、シートの閉鎖を確実に行っていなかったことから、転覆した際にシートが外れた可能性があると考えられる。</p> |
| 原因 | <p>本事故は、本船が旋回中に横波を受けて転覆した際、機関室のハッチを兼ねているシートが外れたため、機関室に浸水したものと考えられる。</p> |
| 再発防止策 | <p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・船長は、出航前に、機関室の上部ハッチを兼ねているシートが確実に閉まっていることを確認すること。 |